

尋常小學校讀本

倉知新吾編輯

五

檢定申請本

K120.8

50

5

K120.8

50

5

倉知新吾編輯

尋常小學校讀本

益智館 同梓
古香堂

尋常小學校讀本卷五

第一課

春

日やうやく長く、氣候次第小暖あり。の
ちもなかり草もおひくもほいで、
枯木のちやく見はし木ども青々と
め茂出し、中ふち、美しき花のさけるも

何里さへ遠る鳥の聲も、處々小聞こゆ。
まことによきけしきあり。

氣候 枯木 聲 處

第二課

樹木を植ふる處と

樹木を植ゑて、其成長を待つハ、樂しき
ものなり。樹木ふは、成長の速きと、遅き
とあり。木を植ふるものも、用十年の後

を待つと、云へる處あれど、松、杉、赤や
た等も、二十年ばありも、經ずバ、用材と
ならざるなり。桃、栗などハ、成長速く、種
子とりめ出きて、二三年を經む、實を結
ぶ。又梨、柿などハ、八年ばありみて、實成
結ぶ。されバ、桃、栗三年、柿八年と、云へる
處ともあるなり。

汝等、良き地をえらびて、樹木を植ゑ置

け、成人となりたる後の、青々と志て、大
ある木となるもあらん。花美しくきり
て、多く實を結ぶとあらん。

速待 經材良置

第三課

オモヒツキ

或ル時、多クノ小兒、互ニ、ゴム球ヲ投ゲ
テ、遊ビ居リシガ、如何シタリケン、一人

ノ投ゲタル球、フト、小
サキ穴ニオチイリタ
リ。小兒ドモ、之ヲ取ラ
ントテ、イロくニ、工
夫シケレドモ、穴深ク
シテ、手モトゞカザレ
バ、如何ハセント、案ジ
居タリ。



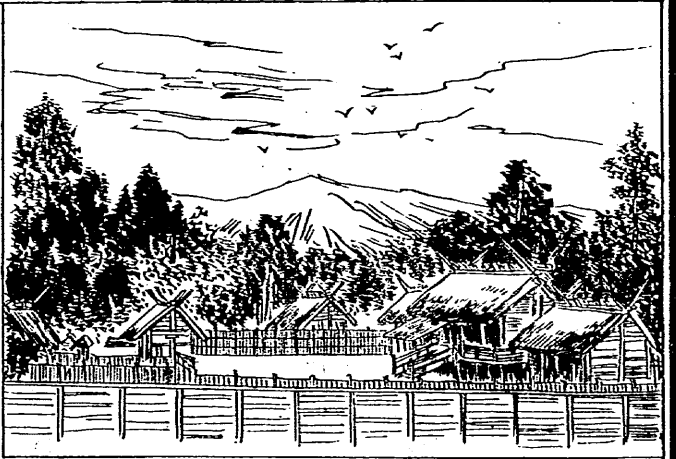
シカルニ、其中ノ一人、思ヒツキシコト
アリケン、其穴へ、水ヲツギコミタレバ、
球ハ、自ラ浮ビ出デ、容易ク取ルコト
ヲ得タリトゾ。

球 投 工夫 案 浮 容易

第四課

太神宮

太神宮ノ社ハ、伊勢ノ山田ト云フ處ニ



テモ、アガメタフトミ、タテマツラヌモ

アリテ、天照太神ヲ、
祭リタテマツレリ。

天照太神ハ、我が

天皇陛下ノ御先祖ニ、

マシマセル神ナレバ、

上ニモ、深ク御信仰ア

ラセラレ、又下々ニ於

ノナシ。

社 伊勢 祭 先祖 御信仰

第五課

制札

乙吉ハ父ニ伴ハレテ、或ル神社ニサンケイセシニ、鳥居ノワキノ方ニ、タテタル制札ニ、

一車馬ヲ乗入ル事

一魚鳥ヲ捕フル事

一竹木ヲ伐ル事

右條々境内ニ於テ禁止セシムル者也

ト書キテアリケレバ、乙吉ハ、暫ク考ヘシガ、ワカリカ子タリト見エ、父ニ向ヒ、此レハ、何ノ札デアルカト、尋子タリ。父ハ、此境内ニ、オヒシゲリタル竹木ハ、



皆神ノ竹木ニテ、此ニ
遊ベル鳥ナドモ、皆神
ノナレバ、一本ノ枝モ、
伐ルベカラズ。一羽ノ
雀モ、トルベカラズ。又
車馬ナドニ乗リナガ
ラ、此境内ニ入ルハ、神
ニ不敬ナルコトナレ

バ、タレニテモ、決シテナラヌゾト、示セ
ルナリト、教ヘタリ。
乙吉ハ、ツレヨリ、父ト共ニ神ヲ拜シテ、
カヘリ來リシガ、途中ニテ、車止ト書ケ
ル制札ヲ見テ、又車止トハ、如何ゾト尋
ネケレバ、父ハ、道ブシンノタメ、車ノ通
行ヲ禁シタルモノニテ、此札ノ夕チア
ル間ハ、車ヲ通スコトヲ、得ザルナリト

教へタリ。

伴 暫 考 尋 羽 雀 不 敬

教 示 拜 途 中

第六課

ま と 射

菅原道真ハ、幼少より學問を好み、又武藝にもきとありしが、或る家に、射術の會阿里とた人々相さ、やきて、此兒

ハ、學問のきふに、高けきど、武藝も、うやあらん。ま と 射ること、或こゝろ、まらせん。と、弓矢を出だして、をすめたり。
道真は、何事と、うとければ、ゆるされよと、お



とわりけるを、人々羨りぎれば、せんか
たあくて、弓矢成と里あげ、正しく射禮
をなし、えなちたりしに、其矢阿やまた
ず、まやを射あてければ、人々驚きて、感
賞したるきとぞ。

幼好 武藝 射術 會禮
感賞

第七課

學問は何のたゑおむるか

人れ業に、農業、漁業、工業、鑛業、商業等の
別あり。此等れ業盛ふれば、家も國も
榮ゆべし。されば、各何ありやと、一れ職
業を得て、それを勉勵むべきなり。

汝等れ學校ふて、學問をなすを、他日、必
一人前のものとなりて、種々の業をい
とあむに、要用ある事なら成、知らんが

た免あり、汝等、各其職業を盛ふ志、家を
起さんと思はゞ、先づ學問を勵むこと、
肝要ありと知はべし。

盛 榮 職 勵 肝要

第八課

勉めて後小遊べ

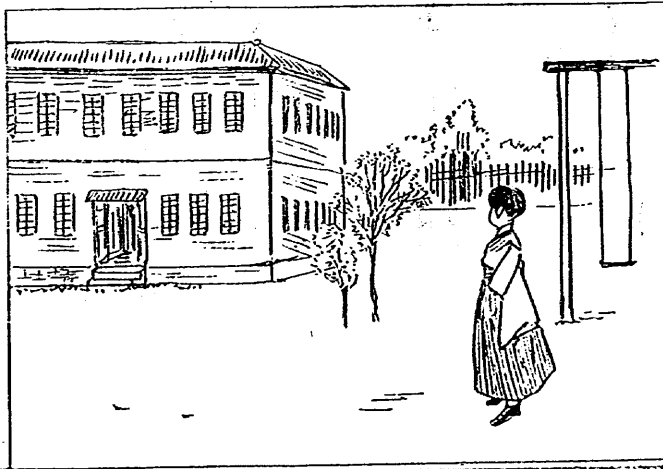
太田榮三といふ生徒ハ、算術の時間に、
屢々、わき見をかゝ、或も物をもてあそび

し、小と里、教師も、榮三小向ひて、あかた、
左様に勉強がいやならば、むり小教室
小居ても、無益だらうら、外へ出で、お遊び
なされとて、榮三をたゞ獨り、遊歩場に
やりたり。

あくて榮三を、未だ二十分も經ざる中
小、もや遊にうみつゝあれ、却りて他の生
徒のけいこする様の、楽しく見に、自分

も其中に交りて、勉強
志たきふ、ちみなを
里。

其中算術は時間もす
み多れば、友だちの皆
遊歩場にいで來り、如
何ふも樂志く遊ぶふ
と里、榮三も、一志とに遊むんとせうが、



何となく、自らを倦あしくおりて、空し
くながゑ居たり。

そきと里、榮三は、大ふくやみて、教師の
前ふ行き、今よりむ、羨つと、勉強志まは
あら、許して下ききと、里びたり、が、其
次は時間ふも、教師にほゑらるゝ程、け
いふに氣をほけ、さて遊歩は時間ふ至
里て、友だちと、一しよに遊び、に、其樂

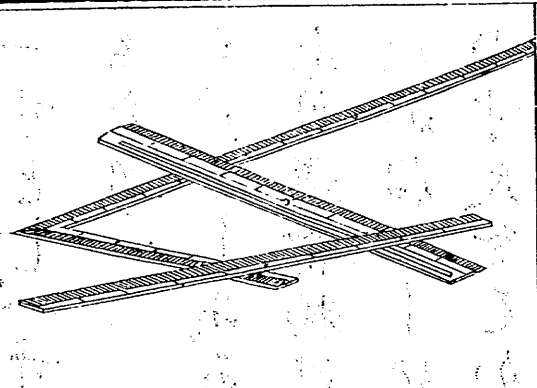
志さひ、前に一人みて、遊びしよりも、ま
ゆるみまさされりとぞ。

屢 師 室 無益 獨 未
却 交 空 許 程 至

第九課

ものさし

汝等の、大工、指物師が、仕事をやるに、も
のさしを用ひ、母又姉等が、衣服を裁



縫ひをやるにも、とけさしを用ふることを
を、知るならん。もれさしと、たゞ此等に、

要なるのみならず、凡
て物の長短は、ゆるみ
あくべからざるものな
り。

とのきしひ、十尺を一丈
と、一尺は十分の一を、

一寸とし、一寸乃十分の一を、一分と
するなり。

もれさし、ふあねざしとくぢらざしと
あり。通常物に長短裁はかるに用ふる
は、かねざしにして、くぢらざしは、絹布
の寸尺ををかるに用ふる。かねざしの一
尺を、くぢらざしに八寸み當り、くぢら
ざしの一尺は、かねざし一尺二寸五分

み當る。

一尺とは、如何程を依か、汝等ものさし
につきて見よ。

仕事 裁縫 長短 凡 丈

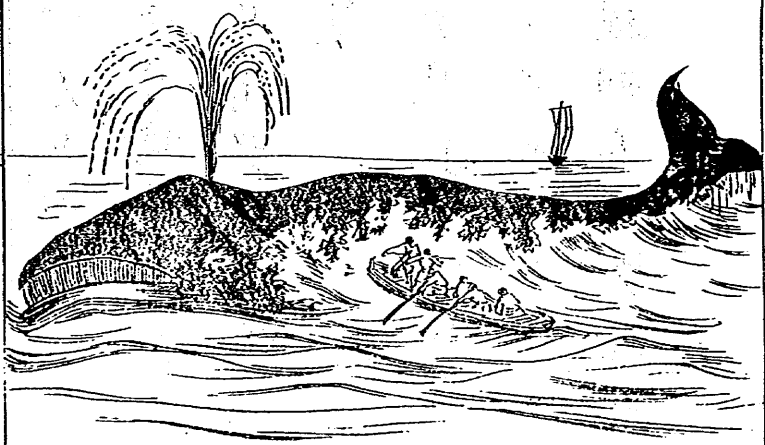
尺 寸 分 當

第十課

コ、ニ、驚クベキ大ナル動物アリ。其形
ハ、魚ニ似テ、ヒレト尾トヲ具ヘ、長サハ

六七丈モアリテ海上ニ浮ブトキハ大ナル舟ノ如ク又小ナル鳴ノ如シ。此動物ヲ何ト云フカ。濱邊ニ住メル小兒等ハ屢此動物ヲ見タルナラン。コレハ鯨ナリ。
鯨ハ魚ノ如キ形ヲ具フレドモ實ハ獸ノ類ニシテ鼻ノアチハ頭ノ上ニアリ。時々水面ニ浮ビテ此アチヨリイキヲ

ナス。其時吹き出ダス水氣ハ二三間モ高く飛ビアガル。之ヲ鯨ノシホ吹ト云フ。
鯨ヲ捕フルハ毎年五月頃ヨリ七八月マデナリ。數多ノ漁夫犬ナル網ヲ投ゲ又ハモリ



ヲウチテ、其行ク處ニマカセ、ツカル、
ヲ待チテ、之ヲ捕フルナリ。時トシテハ、
鯨怒リテ、其尾ヲフルヒ、舟ヲコボチ、漁
夫ヲオボラスコトアリ。
鯨ノ肉ハ、人ノ食用ニナリ、其アブラハ、
燈火ニ用ヒ、ヒゲハ、種々ノ細工ニ用フ。
汝等ノ家ニモ、種々ノ鯨細工アラン。父
母ニ尋ネテ見ヨ。

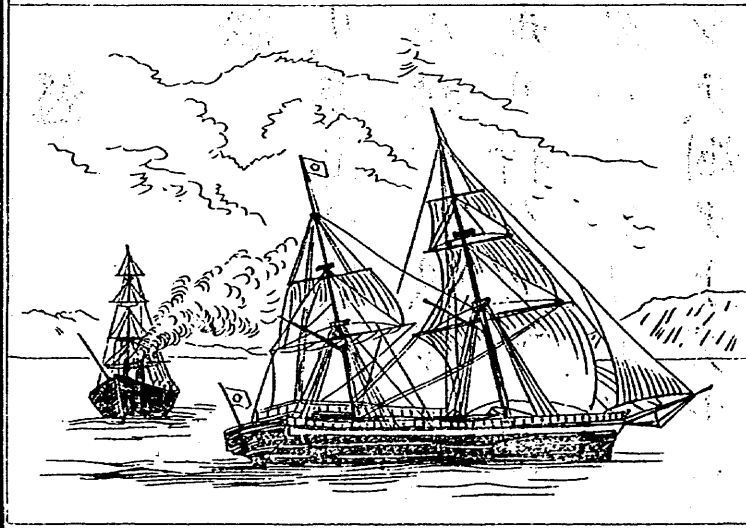
動物 濱邊 飛 怒

第十一課

帆前船ト蒸氣船

今日ハ、好キ天氣ナリ、海上ハ、波靜ニシ
テ、夕、ミヲシキタル様ナリ。數多ノ船
ハ、白キ帆ヲ揚ゲテ、走り行クモアリ。黒
キ烟ヲ上ゲテ、ハセ來ルモアリ。帆ヲ揚
ゲタルハ、帆前船ニシテ、烟ヲ上グルハ、

蒸氣船ナリ。帆前船ハ、帆ニ風ヲ受ケテ走り、蒸氣船ハ、石炭ヲタキ、湯ヲワカシ、其湯氣ノ力ニテハス。蒸氣船ノ仕掛ハ、甚ダ巧ナルモノナリ。



靜揚烟受仕掛巧

第十二課

蠶

虫ノ種類ハ、數知レヌホド、多キモノナルガ大抵ハ、人ノ益ヲナサズルノミナラズ、中ニハ、害ヲナスモノサヘ、少カラズ。シカルニ、蠶ノ如ク、大ナル利益ヲ人ニ與フルモノハ、マコトニ稀ナリ。

蠶ノ一生ハオモシロキ變化アルモノナリ。卵ヨリカヘリ出デタル時ハ薄黒ク小キ虫ナルガ、桑ノ葉ヲ食ヒテ、漸ク成長シ、一週間モ食ヒツゞケタル後、始メテ眠ニ就ク。眠ルコト、大抵一日一夜餘ニテ、其間ハ動カズ、食ハザルナリ。カクテ尚ホ、一週間程モ過グレバ、再ビ眠ニ就ク。其成長ヲ遂グルマデハ、四夕



ビ眠ルモノナリ。其起クル毎ニ、必ず皮ヲヌギ、桑ヲ食フコト、日一日ニ多クナルナリ。十分成長シテ、最早桑ノ葉ヲ食ハヌ様ニナルマデハ、凡ソ

五週間程モ要スルナリ。サレド、其カヒ方ニヨリテハ、四五十日ヲ要スルモノアリ。カクテ後、口ヨリ糸ヲハキ、繭ヲ造リテ、其中ニカクレ、形ヲ變ジテ、サナギトナリ、二週間バカリノ後、羽ヲ生ジテ、蛾トナリ、自ラ繭ヲ破リテ出ヅ。

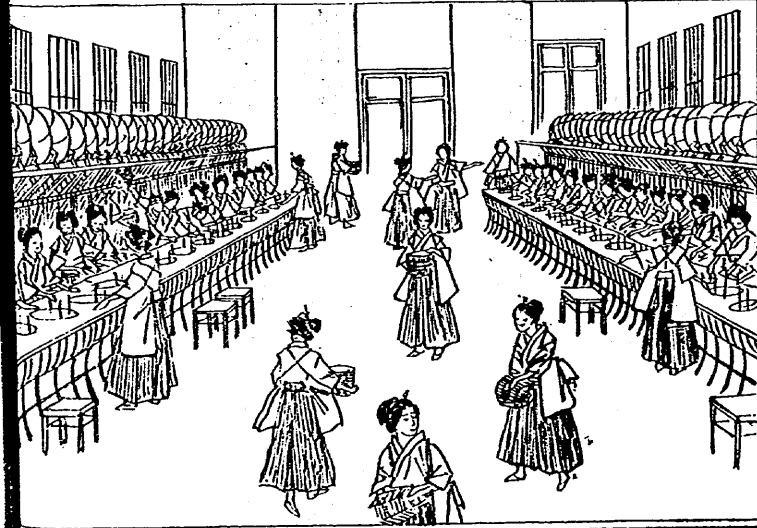
利益 稀 變化 卵 薄黒 桑
就 過 遂 破

第十三課

生糸

こゝ小畫きたはハ、製絲場此圖なり。數多乃工女は皆繭を煮、糸くゞ器械にて、糸を引けり。さなぎの蛾とあらざる中に、繭を煮て、糸を引き出さべし。きあくむ、さなぎをむしまろく置くを、とろしといひ。蛾とな

繭を破りて出づ
る時ハ糸は、黄まき
れになるが故あり。
繭と里取りたる糸
或生糸と云ひ、生糸
をぬりた糸を、ねり
糸と云ふ。ねり糸に
て、絹を織り、衣服な
どを造る。



生糸ハ、我が國ハ産物中、最も大切なる
も此みて、外國へ賣出たこと、甚だ夥し。
製絲場 器械 織 産物 夥

第十四課

日本武尊

日本武尊也、景行天皇ハ御子あり。
天皇ハ御時、あはま乃えびも、そむきあ



まむ、天皇尊をして、
之を討たせたまへり。
尊ゆきて、まはらふい
たりたまひに、えび
まどもいつも降り
て、尊を誘ひ、不意小原
野をやきて、之をおそ
ひ奉る。

尊を帯びさせたまへ、海むらくとれつ
るを抜き、草をなぎたまへり。たまた
ま疾風起り、舟のほりへりて、えびを北
方へ向ひたり。尊勢に乗じて、ふはひた
たかひたまへむ、えびす大にやぶれて
走れり。

討 誘 不意 奉 帯 抜
疾風

第十五課

田ノ草取

苗ヲ植エテヨリ、凡ソ一月バカリヲ經
バ、農夫ハ、田ニ入りテ、雜草ヲ拔キ去ル。
雜草生ヒシゲラバ、稻ノ成長ヲ妨グル
ガ故ナリ。サレバ農夫ハ、夏日ノ暑サヲ
モ、イトハズシテ、田ノ草ヲ拔去レリ。
田ノ草ハ、一度ノミナラズ、兩三度モ、取

ラザルベカラズ、故ニ一番草、二番草、三
番草ノ稱アリ。

雜草ノ中ニテ、田ヒエト云フモノハ、早
クハビコリテ、稻ノ害ヲナスコト最モ
甚シク、又ヒルモト云フモノモ、大害ヲ
ナスモノナレバ、何レモ速ニ、拔去ラズ
バアルベカラズ。

雜草 妨 兩

第十六課

水車

小川此ほと里に、二人乃小兒あり、水車
成す急つけて遊べり。此水車ハ小兒の
自ら作りしものならん。

水車ハ桐の枝を短く切り取り、之に竹
枝貫きて、ちくとあし、ちくこれ急ぐりふ、
わ里かけたる細き竹、五六本をさし、其

竹ハ附木をささみて
はねとあし、糸ふて附
木此をなれぬ様に
くれ里。

小兒ハ、小川の兩側よ
里、石を疊み上げ、水底
此土をさらひ、水車を
石此上に、あけ渡しけ



まば、水車ハ、流小おきて、急ぐ里めぐ
れり。

小兒ハ、如何小も、おも志ろきお、ち
て、遊べる様なり。

汝等と、大なる水車此仕掛を、見たるお
とあらん。水車を用ひて、米をつね、粉を
ひき、糸車をまを、等人力我助く、流こ
と頗る多し。

これらも、たわまば、いそ志まん。
めぐれば、車此おづまぬ、如く流
る、水のやまざ、流如く。

桐貫 兩側 底粉 助 頗

第十七課

河

河ノ源ハ、多ク山ニ發ス。其始ハ、細小ナ
ル流ナルモ、次第ニ諸處ヨリ、水ノ落チ

合ヒテ、小川トナリ、小川又諸方ヨリ、ツドヒ合ヒテ、遂ニ大ナル河トナル。

河ハ、谷間ヲ流レ、田野ヲ廻リ、長キ路ヲ經テ、海又ハ湖ニ注グ。

河ニハ、舟ヲ浮ベテ、物ヲ運ブ便アリ。或ハ水車ヲ仕掛ケテ、種々ノ働ヲナサシムル事アリ。又其水ヲ數多ノ田地ニ引キテ、作物ニ供ス。

河ニハ、多クノ魚ヲ産ス、コヒ、フナ、サケ、マス、アユ、ウグヒ、ウナギ等ハ、其主ナルモノナリ。

河ハ、カク我等ニ、大切ナルモノナレドモ、時ニハ、洪水アリテ、堤防ヲ破リ、人家ヲヒタシ、田畑ヲアラスコトアリ。

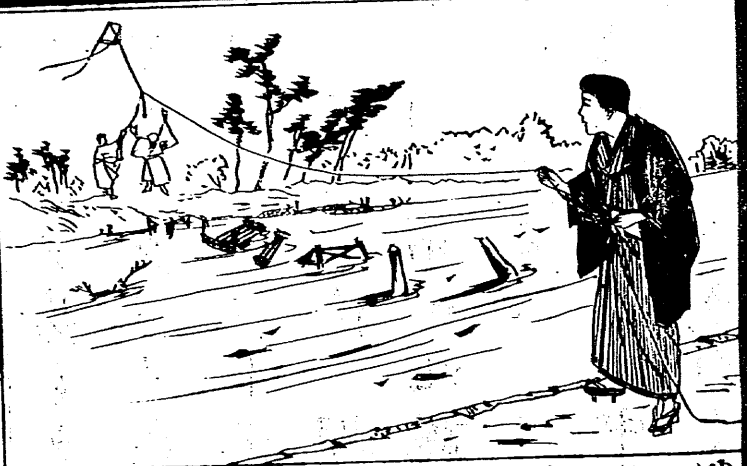
源 發 諸處 湖 働 堤防

第十八課

洪水

梅雨ノ半頃、雨シキリニ、降リツゞキケレバ、河流ハ、ミナギリテ、非常ノ洪水トナレリ。

河ニカケタル橋ハ、此洪水ノタメニ、押し流サレ、東西、兩岸ノ通行絶エ、人々互ニ、夕ヨリヲセント思ヒ、呼ベトモ、聲ハトゞカズ。スベキ様モ、ナカリケリ。



然ルニ、一人ノ賢キ男アリ、雨ノ晴間ヲウカガヒ、風ヲ夕ヨリニ、西ノ岸ヨリ、夕コヲ揚ゲタリケレバ、東ノ岸ニ居ル人、ソレトサトリ、糸ニ石ヲ結附ケテ、空ニ投ゲ、夕コノ糸ニカ

洪水ノ時ノ様子

ケテ之ヲ落シタリ。

是ヨリ、タコノ糸ニ、手紙ヲ附ケテ、夕ヨ
リヲスルコトヲ得タリキトゾ。

非常 橋 押 絶 呼 賢 晴

第十九課

志み

書物衣服等此中に在りて、紙或は絹な
どを食ふ、色白く志て、小き虫あり之を

志こと云ふ本箱又いたんを此中に志
免里けあれば、多く生を海にとり、よく
よく注意して、志めらぬ様に在べし。

桐ハ、よく志免りを防ぐも此なきバ、本
箱、たんを志どを造るふ、其材を用ふ海
城をろしとに。

夏に至れば、書物衣服は、日に乾らして
干在べし。

第二十課

賢き考

或る人地所を買ひて、新に家を建てんとせ志に、其地れ中程ふ、大なる石ありて、其まゝに之を置きては、家を建つるふと能わぬ。又之を他處にうつさんふも、非常に入費を要すべき候もて、如何もせんと、工夫を廻らし居たり。



や、何里て、一人の朋友、尋ね來りければ、直に其事を相談せしに、其人石れ側に、相當の穴をほり、其穴へ、石を押し入れたふして、うづ免よと、教へたりとぞ。

新建 入費 朋友 相談

第二十一課

家屋

家を建はるにも、地をあたゑ、石づゑを
とゑ、柱、うつぶまけたたるき等を組立
つるなり。其屋根をふくに、瓦ぶき、板ぶ
き、草ぶき等、此別あり。

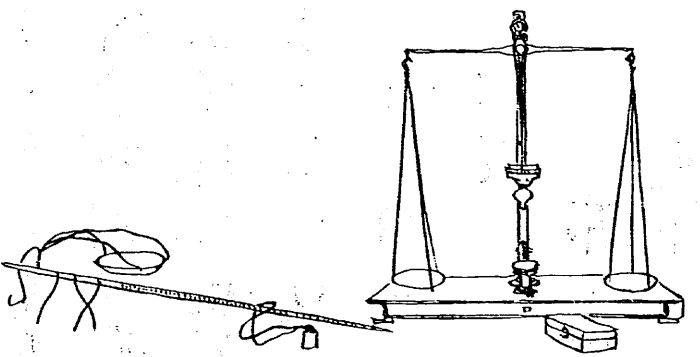
家此中にて、床の間、戸棚、志きぬ、おもに
等を設く儀を、造作と云ひ、戸、障子、ふす
ま、あらし等を建具と稱す。

近頃、我國にも、西洋此家の作方にあら
ひて、煉瓦、疊、石造等、此家次第に増加を
儀に至れり。

- 柱 組立 床 戸棚 設 障子
- 煉瓦

第二十二課

天秤



天秤ニハ、二様アリ。其一ハ、竿ノ一方ニ、分銅ヲカケ、一方ニハカギ、又ハ皿ヲ附ケタルモノナリ。此天秤ハ、通常我等ガ、炭薪、砂糖、烟草、茶等ヲハカルニ、用フルモノナリ。他ノ一ハ、竿ノ兩方ニ皿

ヲカケ、一方ニハカルベキ物ヲ載セ、一方ニ、分銅ヲ載セテ、其目方ヲ、知ルモノナリ。此天秤ハ、通常藥種等ヲハカルニ、用ヒラル、ナリ。

ハカリ目ハ、一貫匁ヲモト、シ、其千分ノ一ヲ、一匁ト云ヒ、一匁ノ十分ノ一ヲ、一分ト云フ。又一斤ト云フハ、通常百六十匁ナリ。

皿薪 砂糖 烟草 茶 載
貫 匁 分 斤

尋常小學校讀本卷五

明治二十五年九月廿八日印刷

同 年十月十日出版

定價金七錢

石川縣金澤市片町五十番地之三

編輯兼 發行 倉 知 新 吾

同縣同市安江町十番地

發行 者 近 田 太 三 郎

同縣同市上近江町四番地

印刷 者 廣 瀨 與 作

發行 所 金 澤 市 片 町 益 智 館

同 同 市 安 江 町 古 香 堂

